

平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章		都立品川特別支援学校		知的障害	通学区域	品川区一部、目黒区一部、大田区一部		
		一人一人を大切にし、自立し社会参加できる力を育てる学校				進路実績	ほぼ全員が、港特別支援学校高等部へ進学(一部: 田園調布・青鳥特支)	
基本情報	所在地	〒 140-0004 品川区南品川六丁目15番20号	電話番号	03-5460-1160	本 情 報	教 育 課 程 特 徴	①	スモールステップによる個に応じた指導
	アクセス	(1) JR京浜東北線「大井町」駅下車 徒歩5分 (2) 東急大井町線・りんかい線「大井町」駅下車 徒歩5分 (3) 京浜急行線「青物横丁」駅 徒歩10分					②	読書活動を推進する組織の構築による専門性のある読書指導
設置学部	小学部、中学部			③			将来を見据えたスモールステップによる進路指導・キャリア教育	
幼児・児童生徒数	182名(小学部122名、中学部60名)			④			食育を推進するスモールステップによる給食指導	
学級数	39学級(小学部26学級、中学部13学級)			⑤			スモールステップによる生活指導(通学等)と地域と連携した防災教育	
報	スクールバス	11台(小型11台)			副籍実施状況	令和元年度実績 名(直接交流 名、間接交流 名)		
	その他	オリンピック・パラリンピック教育推進事業(全校指定) 言語活動・読書活動の充実事業、東京教師養成塾事業			学校評価	令和元年度 学校評価(保護者)アンケート <肯定的評価> 回収率: . % 個に応じた教育 93%、キャリア教育の充実 95%、健康教育・食育の充実 97%、生活指導の充実 93%、地域との連携 88%、専門性のある人材活用 89%等		
目指す学校	本校は児童・生徒の人権を尊重し個に応じた教育を推進するとともに、個性を尊重し豊かな人間性や社会性を育むことにより、自立し社会参加できる児童・生徒を育成する。 ○人権を尊重し、一人一人を大切にできる学校 ○日々の授業を大切に、健康で安全に教育活動ができる学校 ○家庭、地域と連携を深め、地域社会から信頼される学校							

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目標①	個に応じた指導、スモールステップによる指導の徹底 ① 外部専門員による発達、言語、行動等の指導の充実 ② 教科で作成した指導のスモールステップを用いた授業改善 ③ 授業者サポート研修による授業改善 ④ 指導技法を学ぶ選択研修会による指導改善 ⑤ 授業改善について発表ポスターを作成することで説明力の向上	個に応じた指導、スモールステップによる指導の徹底 自己評価 ◎ 数値目標 学校評価「個に応じた指導が徹底してきている」85%以上 ⇒ 保護者90.9% 教職員98.6% (※学校評価における肯定的評価) ① 外部専門員による発達、言語等の指導、授業改善に向けた指導・助言、情報教育への支援・助言を年175回を受け授業力の向上を図った。 ② 39学級の全担任が年2回個別指導計画の評価時に、外部専門員や授業アドバイザーによる指導・助言を保護者と共有した。 ③ 教科指導等におけるスモールステップ表を9月までに完成し、その表を活用して、12月までに全教員59名が授業改善ポスターを作成し、授業力の向上を図った。 ④ 夏季休業中に、指導技法を学ぶ夏季選択研修会を9講座実施し、のべ221名が参加し、指導力の向上を図った。	
目標②	教育公務員としての専門性の向上を目指した研究・研修活動の推進 ① 教科指導によるスモールステップ項目の設定 ② 授業者サポート研修システムの確立 ③ 指導技法を学ぶ特別支援学級との合同研修会の実施 ④ 実践研究発表会で行うポスター発表システムの確立 ⑤ アクティブラーニングの観点を活かした学習指導案書式の改訂	教育公務員としての専門性の向上(指導力等の向上)を目指した研究・研修活動の推進 自己評価 ○ 数値目標 学校評価「専門性が向上してきている」80%以上 ⇒ 保護者 82.9% 教職員 98.6% ① 若手教員に対して授業者サポート研修を年34回実施し授業改善を図るとともに、アドバイスを中堅・ベテラン教員のOJT力を高めた。この研修会のシステムが一学期中には定着した。 ② 指導技法を学ぶ夏季選択研修会を9講座実施し、学区の特別支援学級等の教員がのべ179名参加し、専門性の向上を図った。 ③ 教材作成件数(木工、ICT、紙など)380点、サーバー上で共有し活用して、専門性の向上を図るシステムが確立した。 ④ 授業改善についてポスター作成し発表するシステムを9月に全校周知し、12月には実践研究研修会としてポスターを発表を行った。	
目標③	読書活動を推進する組織の構築と読書指導の専門性の向上 ① 教員研修会、保護者対象の読書啓発講習会を実施 ② 図書等の選定基準及び廃棄基準の策定 ③ 家庭への図書貸出の実施 ④ 10月、2月を読書月間と定め、表彰を実施 ⑤ 読み聞かせ会等、品川区立図書館等読書専門家との連携	読書活動を推進する組織の構築と読書指導の専門性の向上 自己評価 ◎ 数値目標 学校評価「読書活動が充実してきている」85%以上 ⇒ 保護者 88.5% 教職員 91.8% ① 専門家による教員研修会を2回(8月、12月)実施しPOP作成等の技術を学んだ。保護者対象の研修会を行い、読み聞かせの技法を学んだ。 ② 10月と2月に2回読書月間を実施し、10月はのべ277名、2月にはのべ331名の来室があり、図書に親しむ読書活動が充実した。家庭での貸出は12月末より実施し、貸出数の集計によると1430冊以上の本が見たり、読んだりされ読書活動が充実した。 ③ 司書教諭も含め教員の読み聞かせは年4回、品川区立図書館の専門家が3回来校され、読み聞かせや紙芝居等が体験した。 ④ 8月に読書活動ボランティア講座を開講し、PTAの方々11名参加された。10月より週2回ボランティア活動を開始した。	

数値目標	今年度の数値目標の内容	28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	研究授業者に対する授業者サポート研修の実施(回)					12	33	35	34			

目標	目標②	指導技法を学ぶ選択研修会の参加者(人)					150	192	270	400			
	目標③	校内及び家庭への図書貸出実績(冊)				108	300	625	800	1430			